

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

2012年度 新春名刺交換会



平成24年1月25日(水)、毎年恒例となる「新春名刺交換会」が日比谷松本楼にて開催されました。18時より開会した第一部の講演会では、会員多数が出席する中、イマジニア株式会社、代表取締役会長兼CEO(松下政経塾 理事)神藏孝之様から『松下幸之助の3つの政治ビジョンとその実践者たち』と題して、政財界に人材を輩出し続ける松下政経塾にまつわるお話を、50分にわたり興味深く語って頂きました(講演の詳細は3面をご覧ください)。

19時より、第二部となる新春名刺交換会へ席を移し、立教学院理事長 糸魚川順様、立教大学総長 吉岡知哉様を始め、各学部長・教授、校友会副会長 小出康之様、立教出版クラブ会長 藤岡比佐志様、マスコミ立教会会長 砂田郁郎様含めご来賓26名をお迎えして開催されました。開会のご挨拶として経済人クラブ 和田成史会長より、例年より多くの出席者(総勢117名)を迎えて盛大に開催できた感謝の言葉に始まり、昨年を振り返る大きな出来事として、何より東北大震災、タイの洪水、中東アラブの民主化革命、ビンラディン・カダフィ・金正日など著名な元首の死去をとり上げられました。続いて、第一部の講

師である神藏様への謝辞とともに、お話頂いた政治と我々の足下の興味である経営は、どちらもビジョン・理念が不可欠である旨、語気を強められました。最後に、本年は当会の会員拡大を図り、不安定な世の中を立教らしい結束力で乗り切っていくこう、と結ばれました。

続いて、ご来賓を代表して立教大学総長 吉岡知哉様より、震災当日、立教大学は帰宅難民者に学校を開放し、約4500人を支援したお話をご紹介頂きました。また、震災で壊滅的な被害に遭った陸前高田へ、学生がボランティアに出かけている逸話にも触れられました。さらに学校の状況として、今年も入試応募状況は順調であり、体育会も力を付けてきて、野球も優勝を争うまでになっている旨、お話頂きました。

立教学院理事長 糸魚川順様からは、大学秋入学の話題、また、立教池袋高校生が国際化学オリンピックで金メダルを獲得した栄誉の陰には、大学の支援もあり立教らしい成果の逸話を披露されました。さらには、週刊誌の特集 大学の就職力ランキングで、立教は早稲田・慶応・東京・京都に次ぎ堂々の5位に入ったことに触れられ、学校の応援の為、募金の必要性に言及されまし

た。体育会の状況報告で、白石副総長体育会会長にマイクを渡され、強化方針が目覚ましい成果を出してきている。個人では全日本レベルの選手が何人かおり、オリンピックも狙える。団体も何十年振りに一部復帰というようなケースが見受けられるようになってきている、とのお話を頂きました。

続いてご来賓各位を紹介した後、当会会員でもあられる現法務大臣 小川敏夫様(S45法)が会場に到着し、立教にまつわるエピソードを交えてご挨拶頂きました。その後、新たに経済人クラブの一員となった新入会員の方々の紹介、そして校友会副会長 小出康之様の乾杯のご発声で、宴の幕が上がりました。

歓談の時間では、幅広い世代の校友が名刺交換を通して人脈を広げ、久しぶりに会う同級生・先輩後輩が学生時代の懐かしい話で盛り上がり、松本楼の美味しい食事とお酒により会場は終始熱気に包まれておりました。

宴酣ではありましたが、坪野谷雅之様(S40経)のご挨拶をもって大学の益々の発展と会員企業の隆盛、各位の健勝を願いながら閉会いたしました。

一徳澄 範光 S62数一

2011年 クリスマス・パーティー

2011年12月13日(水) 18:30
ハイアット・リージェンシー東京



2011年12月13日、18:30から、新宿のハイアット・リージェンシー東京にてクリスマス・パーティーが開催されました。

2010年は立教経済人クラブの30周年記念行事があったため、クリスマス・パーティーとしては、2年ぶりの開催となりました。

当日は、和田会長、時の人となった、立教新座中学高等学校の渡辺憲司校長のご挨拶などにはじまり、立教大学佐藤チャブレン長のお祈り、毎日コムネット伊藤先輩の乾杯で楽しい時間がスタートしました。新宿の高層階(27階)のすばらしい夜景の中、ゆっくりとお食事を召し上がって頂きながら、ジャズの生演奏で、より一層クリスマス気分が盛り上がりました。サプライズとして、なんと事務局の深澤さんが、ジャズシンガーとして初舞台にあがりました。プロの歌手さんながらの歌を披露してくれました。最後に、恒例のビンゴ大会も開催され、盛況のうちに閉会となりました。

今年の参加人数は、総勢83名と大盛況でしたが、ほとんどがゲストの方で、例年のごとく会員の方々の参加が少ないという課題を残すクリスマス・パーティーでもありました。

—戸張 則博 S54営—

「子供の正義」

様々なことがあった2011年でした。

昨年流行った言葉の中に『正義』があります。『正義』とは広辞苑によれば「正しいすじみち。人の行すべき正しい道義」とあります。東日本大震災発災の後、『日本人の正義感』が広く海外にも知られるようになりました。訊かれれば「特定の宗教を持たない」と答える日本人が多い中、世界の人々から見ると、日本人の『正義感』や『公德心』といったものは、一体どのように養われるのだろうと、興味深いものがあるようです。私も仕事柄(幼稚園の園長をしています)気になる事柄です。ハーバード大学のマイケル・サンデル教授の『これから正義の話をしよう』が大ベストセラーになりました。私もこの本は読んでみましたが恥ずかしながら、今一つピンときませんでした(ご理解が深い方にご指導いただければ幸いです)。ところがある時それを幼稚園の4歳児クラスの子どもに教えられました。

幼稚園には毎年、教育実習生が来ます。実習生は実習期間の中で一日丸々保育を担当する日があります。ある20歳の実習生が、「赤ずきん」の絵本を読んだ後、子どもを赤ずきんとおばあさんと狼のグループに分けて鬼ごっこをして遊ぶ、というゲームを行いました。遊ぶところまでは大変うまくいって

した。しかし最後に実習生が、『赤ずきんちゃんとおばあさんと狼さん(!)は一緒に遊んだから、最後に仲直りしましょう』と言った瞬間、子どもたちが大きな反応を見せました。口々に『それはおかしい!』『なんで仲直りなの?』と言い始めたのです。気の毒に実習生は、完全に立往生してしまいました。私は、全く子どもが正しいと思いました。4歳児は物事の良し悪し、正義と不正義をきちんと理解していたのです。「赤ずきん」の絵本にはいろいろな種類があります。その中に、「この話は最後が子どもには残酷だから、狼と赤ずきんを仲直りさせる」というバージョンがあり、実際に売られていたといいます。私たちが気をつけなければならないのは、大人の勝手な思い込み(ここでは「仲良くなってハッピーエンドになるような一見優しい話がいい」)によって、子どもたちに正しい道を教えることをしないということだと思います。ハーバード大学で『正義』についての講義を聞かなくても、4歳の子どもがすでに正義を理解していることに、私は強い感銘を受けました。

震災を乗り越え、この日本が正義を持って素晴らしい年を作ることができることを祈っています。

—田中 善之 S57法・H22院ビ—



新春名刺交換会講演

松下幸之助の3つの政治ビジョンとその実践者たち

イマジニア(株) 代表取締役会長兼CEO
神蔵孝之様(松下政経塾 理事)

神蔵氏略歴
1956年東京生まれ。80年早稲田大学商学部卒業。
84年松下政経塾卒業(二期生)。
松下幸之助塾長より直接指導を受ける。いったんは政治家を志すが、塾講師陣の一流経営者たちと接するうちに「無から有を生み出す」商売の面白さを実感、実業家への転身を決意。
86年1月イマジニア(株)を設立、代表取締役社長に就任。
96年株式会社店頭公開。94年「稲盛経営者賞」受賞。
数々の大学講師を歴任。
現在、松下政経塾理事、宮城県震災復興会議委員、プラチナ構想ネットワーク幹事。

松下政経塾とは

松下政経塾の卒業生は、現政権だけでも野田首相、前原政策調査会長をはじめとする38名、宮城県の村井知事など地方首長10名に上ります。私は1981年に入塾し例外的に経営の道に進みました。

松下政経塾は、パナソニックの創業者である松下幸之助が次世代の国家指導者を育成すべく私費を投じて、1979年に設立された政治塾です。松下幸之助は1945年の終戦時に当時の金額で2,000万円に上る財産を失ったうえ戦犯として訴追された経験を持ち、「国が経営を誤れば、いくら一経営者が努力しても全てを失う」ことを、身をもって体験しました。

松下政経塾のビジョン

松下幸之助の政治ビジョンとは、突き詰めれば「無税国家」「新国土創成論」「政治の生産性の向上」の3つであると私は考えます。そして、その実践者がアジアにいます。

鄧小平と朱鎔基

1992年に「南巡講話」を発表し、「改革開

放」「先富論」を唱えた鄧小平は、市場経済化のビジョンを明確に打ち出しました。朱鎔基の改革(国営企業の不良債権処理、外資招聘)でそれは全国に拡大し、僅か20年で「世界の偉大な生産工場」たる現在の中国を創りました。かつて人口6万人の寒村だった深圳は、iPhoneの受託製造で有名なホンハイの工場を擁し、今や常住人口1,000万人超の一大工業地帯です。

またマカオは今やラスベガスの2倍以上年間12兆円のカジノ収入を稼ぎ出す。この国は「新国土創成論」の本質である需要の創造を実践しています。

リー・クアンユー

1965年に独立したシンガポールには資源も水も土地もないが、現在アジアで最も豊かな国になりました。これを実現したのがリー・クアンユーです。彼は「無税国家」を実践しました。独立当時は人口200万人、英語を話せる国民は2割に満たなかった。リー・クアンユーは英語の公用語化、教育重視、金融センター化、IT産業振興に戦略的に取り組んできた結果、2年前には1人当たりGDPが日本を抜きました。

同国は無借金で、経常収支の黒字分をプー

ルしてはタマセックなど国家系2ファンドで運用しています。両ファンドの合計資産額はGDP17兆円を遥かに上回り、平均利回りは1割超と驚異的です。結果、相続税ゼロ、法人税率17%など各種税率は低水準にあります。

最後に

片や日本は過去20数年間GDP、税収とも下がり続けています。日本はできることを探すより、できない理由を探すことに長けた「昨日の専門家で明日の専門家」が多い国です。

松下哲学の要諦を一言で言えば、「人間大事」です。松下は「人間は甘いものばかり食べていると甘いものを食べていることが分からなくなる。たまには塩を口にねじ込む必要がある。」と語っていました。甘やかさずに、人間の持つ無限の可能性を引き出すことです。彼らがこれらの奇跡を実現できたのは、ビジョンや仕組みの秀逸性だけでなく、本質的に人間の可能性を信じ、困難に対して果敢に挑んだからではないでしょうか。その意味で、彼らは「人間大事」の実践者とも言えるでしょう。2012年、岐路に立つ日本の政治・経済に必要なのは、この哲学の実践ではないでしょうか。

—桑本 淳子 H8法—

人事・労務セミナー

うつ病の職場復帰の在り方

企業のメンタル対策は進み、一次・二次予防の考え方も普及してきた。また、うつ病からの職場復帰に際し、企業でリハビリ出勤を実施するケースが増えてきている。10年前と比較すると企業のメンタルヘルス対策は明らかに進んだ。しかしながら、うつ病による休職者は益々増加しているし、職場復帰後の再発率はいっこうに下がらない。そこで、今回は三次予防とりわけリハビリテーション、再発予防について考えてみたい。

1. 企業でのリハビリは難しい

例えば脳卒中によるリハビリでは、疲労が蓄積してきた場合、休養するか継続するかは判断に迷うところだろう。しかしリハビリを1日休めば、2日後退してしまう。休むか、休まないで継続するかは医師の専門的で総合的な判断が必要だろう。

この点は、うつ病による休職からのリハビリ出勤においても同じだと思う。我々の気分は行ったり来たり、良くなったり、悪くなったりする。ましてやうつ病からのリハビリ出勤中では気分は大きく波打つ場合がある。その心の疲れが出た場合、リハビリプログラム通り少しずつ負荷を上げて行くのが良いのか判断は難しい。休まないことによって疲労が蓄積し、うつ状態に逆戻りする場合がある。休んだ場合、リハビリによる心の活性化が停滞もしくは後退する。これをくりかえせば、いつまでたってもリハビリは進まない。これも専門家の手にゆだねなければならない。

脳卒中のリハビリを会社で行うことはまずない。医療機関でリハビリを済ませてから復職するはずだ。それが、うつ病のリハビリならなおさらではないか。身体なら治っているか治っていないかは、歩行や作業を見ていればある程度わかる。メンタル不全の場合、一見治っているように見えても実はそうでない場合が多い。そうすると身体以上に企業でリハビリをすることは危険であろう。企業はリハビリ機関ではない。会社の人事担当者や人事労務を担当する社会保険労務士はメンタル対策の知識はあっても、多くはリハビリの専門家ではないし、精神科医でもない。精神科産業医や専門的な人材のいない中小企業では対応も限られる。企業で出来ることは、治療の過程あるいは治療後に外部の専門機関でリハビリを済ませてきた休職者の慣らし運転程度と考えられる。

またこういったこともある。統合失調症、パニック障害、パーソナリティ障害、適応障害等が原因でうつ状態を引き起こす場合がある。このような場合その原因となる疾患が治れば、多くはうつ状態も治まるだろう。しかし、その逆はあまりない。巨人軍の現役最後の年であった30歳の夏にパニック発作を起こした長嶋一茂氏はパニック障害がきっかけでうつになっている。長い間回復せず14年後にパニック障害の

回復に伴いうつもなくなっていったという。うつ病は心のカゼとうたわれ、誰もが罹りうる病気と言われている。だから主治医はうつ状態を伴うメンタル不全の場合、患者に配慮し、真の病気を知られないよう「うつ病又はうつ状態」と診断書に書くことが多い。このような場合、復職した従業員にうつ病と同じ対応をしても、真の疾患が隠されているだけに、全く逆効果の場合もあろう。こういったケースも職場でのリハビリは難しい。

2. なぜリハビリは必要か

パナソニック健康保険組合のメンタルヘルス科部長で産業精神医学が専門の富高辰一郎医師は、引用が少し長くなるがこう言っている。「中程度のうつ病の場合、1～2カ月も自宅療養すれば大半の患者はある程度まで回復することが多い。ここでいうある程度の回復とは、症状が和らぐという意味である。会社に行っても問題ないというレベルではない。そして、こういったある程度急性期から回復したうつ病患者を、どうしたら仕事をしても支障がないレベルまで回復させることができるかが、現在のうつ病診療の重要課題になってきている。」「最初の急性期は休養し、その後はリハビリに移る。実はこれはほとんどの病気における療養の基本である。」「うつ病治療にもやはりリハビリは大切である。本人の自主性を尊重しつつ、回復具合に合ったリハビリを始めることが大切と思う。」「日本のうつ病診療においては、主治医にリハビリ指導を行う時間的な余裕がないことも多い。」「リハビリとは体や精神を少しずつ動かすことで、体力面や精神面をうつ病になる前の状態に戻していくことである。」「時代の流れとしては、三次予防に力を入れる方向に進んでいる」

3. どこで出来るか。リハビリの実際

最近になって、リワーク施設やリハビリ機関が増えてきており、実績も上げてきている。東京都立中部総合精神保健福祉センターでは「うつ病ワークトレーニングコース」がある。そこでは、体力や集中力、職業能力の回復、再発予防に向けた知識の習得に加えて、人間力と職場が求めるコンピテンシーの向上を目指している。職業能力回復訓練に加えて、うつ病就労セミナー、認知行動療法、疾病講座、キャリアマネージメント、ストレスコーピング、グループミーティング、SSTなどのプログラムを行い、就労準備性を高めている。50歳以下の都民が対象で、6カ月以内の就労を目指している。精神保健福祉センターは全国各地にあり、インターネットで検索できる。医療スタッフがいるが、医療費の負担が必要である。

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構の東京障害者職業センターでは休職者・企業・主治医の3者の同意に基づいて、職場復

帰に向けた課題点及び復帰の進め方について整理を行い、職場復帰支援計画を提案している。カウンセラーとの相談やフォローの基に、ストレス対処講座、集中力・持続力・正確性・能率等の向上を目指した作業、グループでテーマ討論・ロールプレイ等の集団課題、個別の目的に応じた課題を設定し1日1日をマネジメントして行動する自主課題等のプログラムがある。都内在住・在勤の人が対象で、利用期間は概ね2週間～16週間(最長)。障害者職業センターは全国各地にあり、財源が雇用保険のため、民間企業の休職者であれば費用の負担が無い。

その他民間の医療機関でも充実した内容の復職支援・リワークプログラムを実施しているところがある。これらは図書館やインターネットで調べてみるとよい。

4. 復職のリスクとリハビリの効果

うつ病はリハビリが必要な病気だという医師が増えてきている。リハビリは療養生活から職業生活へのブリッジであり、再休職のリスクを少なくしてくれる。都立中部精神保健福祉センターの生活訓練科長で、精神科産業医である菅原誠氏はこう述べている。

- ・主治医も産業医も面接のみで客観的に職場復帰準備性を判定することは困難。
- ・うつ病休職者の7割は軽症・慢性型である。(当センター調査結果より)
- ・軽症・慢性型うつ病の多くに固体要因として気質(性格傾向、職業観、人生観)や対人関係スキルに根本的な問題をかかえているケースが多いが、職場での復職訓練や薬物療法中心の医療ではこの問題は解決できない。
- ・こういった問題には集団での認知行動療法が有効だが、市中の医療機関や職場の健康管理室での実施は困難。
- ・職場復帰支援機関の利用を規定化もしくは慣例化することで、休職者の誰もが違和感なく利用できるようになり、再休職者の減少はコスト削減につながる。

以上休養と薬で軽快後の再発のリスクと復職支援の重要性について考えてみました。

参考文献

- ・なぜうつ病の人が増えたのか 富高辰一郎
- ・乗るのが怖い 私のパニック障害克服法 長嶋一茂
- ・うつ病治療 常識が変わる NHK取材班
- ・新・薬を使わずに「うつ」を直す本 最上 悠
- ・「うつ」からの職場復帰のポイント 吉野聡・松崎一葉
- ・第4回うつ病休職者の職場復帰支援を考えるフォーラム資料 菅原誠 小林雅子

—金井 勉 S47 産—
社会保険労務士・産業カウンセラー
E-mail: kanai7@world.ocn.ne.jp
URL: http://www.kanaioffice.jp/
TEL 044(948)6591

立教大学体育会ラグビー部 松本監督が語る『古豪復活への道』



「古豪復活への道」

立教大学体育会ラグビー部は、創部1923年（大正12年）、来年（2013年）、90周年です。日本の大学ラグビーでは、7番目に古い歴史を持つ部です。1928年（昭和3年）、慶應、早稲田、東大、明治と共に、現在の関東大学ラグビー対抗戦のもとになる関東五大学対抗戦をスタートさせます。そして、1929年（昭和4年）この対抗戦で優勝を飾っています。昭和のはじめ、一度目の黄金期がありました。以後優勝こそありませんが、1962年（昭和37年）から2年間、慶應に連勝、1964年（昭和39年）から3年間、明治に連勝します。昭和30年代後半～40年代前半、2度目の黄金期でした。

それから約40年間、立教ラグビーは、低迷します。同じ伝統校の早慶明に、大きな差をつけられ、苦杯を喫してきました。1997年に、関東大学対抗戦がA・Bグループの2部制となってから、Bグループでの戦いが続き、部員数も激減、立教ラグビーは、危機的状況でした。そこで、創部80周年を契機に、3度目の黄金期を創るため、我々OBが立ち上がったのが、2000年のことです。創部80周年記念事業として、山元春三先輩（昭和31年卒 ラグビー部OB・OGクラブ代表）のご協力のもと、2002年に天然芝のラグビー場が富士見総合グラウンドに完成しました。その後、アスリート選抜入試、体育会活動奨励金のスタート、そして昨年完成した富士見グラウンドクラブハウスの新築、グラウンド照明施設の設置等、大学の様々な体育会支援策が展開されます。大学、OB・OGクラブ、現役学生が一体となって、立教ラグビーの新たな伝統を創るための環境が整いつつあります。

「3度の壁」

2000年の強化開始から2002年の対抗戦Aグループへの最初の昇格までの苦しい時期が、1度目の壁でした。中澤久人監督（昭和42年卒）のもと、その壁を乗り越えてから、2004年～2005年シーズン、対抗戦Aグループで、青山学院に連勝、7位の戦績をあげます。さらに、立教ラグビーの存在感を世に示そうということで、2005年9月に、「立教ラグビー宣言」を発表しました。これは、ラグビー関係者の間で大きな反響を呼びました。立教ラグビーの目指すもの、ラグビーを通して学ぶべき精神を提唱できたと思います。以後、高校生のリクルートにおいて、この宣言に共感した生徒、父兄、教員の方々

から立教でラグビーをしたい（させたい）というお話を頂くようになります。

2006年、立教ラグビーは、2度目の壁にぶち当たります。春には、同志社定期戦で29年ぶりに勝利するも、秋の対抗戦、得点力不足に悩まされ、入替戦で成蹊に敗れ、Bグループに降格します。ここでも、立教ラグビーは、ひとつにまとまり、組織を強化しました。

2007年、2度目の壁を越え、青山学院に入替戦で勝利し、対抗戦Aグループに再昇格します。しかし、2008-2010年シーズン、Aグループでの厳しい戦いを繰り返します。ディフェンス力は向上し、「立教のタックル」は、存在感を示しましたが、この3年間は、1勝もできず、再びBグループへ降格、これが、3度目の壁、一昨年のことです。

「90周年に向けて」

この壁を乗り越えるため、私は、昨年からGMとして、現場を統括しました。そして、筑波大大学院で、コーチングを学んだ加藤修平君（平成18年卒OB）をヘッドコーチに起用しました。これまで、立教OBだけでは、どうしてもコーチングのレベルに限界がありました。そこで、早稲田OBの皆さんをはじめ、多くの外部コーチをスポットでお願いしてきました。しかし、これからは、富士見グラウンドで、汗と涙を流した立教OBが、再び富士見グラウンドに戻って、後輩たちを指導する継続的な指導体制の構築を進めます。立教ラグビーの新たな歴史と伝統を築き、来年の創部90周年を契機に、さらに高いステージに上がるためにも、立教オリジナルのラグビーを追求する体制を構築しています。

昨年、学生たちは、見事に3度目の壁を乗り越えました。対抗戦が二部制になってから、3度昇格したチームは他にありません。この12年の立教ラグビーは、叩かれても、打ちのめされても、這い上がってきました。壁にぶち当たるたびに、組織を強化し、皆で協力し、乗り越えてきました。学生たちはそれを見ていますし、自ら考え、自発的に行動する風土が、立教ラグビーには根づいています。今年、私はさらに現場を強化するため、監督職を拝命しました。厳しい戦いが始まります。大学のサポートで、環境は整ってきましたが、強豪校に比べると、まだまだ入試制度だけでなく、合宿所の整備、付属校強化など課題は山積みです。立教経済人クラブの皆様からのご声援、ご支援よろしくお願いいたします。

（松本 直久 H1卒）

☆2011年関東大学対抗戦Bグループ戦績☆

- | | | | | | |
|---|------|-----|---|----|--------|
| ① | 立教大学 | 120 | － | 5 | 武蔵大学 |
| ② | 立教大学 | 59 | － | 0 | 上智大学 |
| ③ | 立教大学 | 104 | － | 0 | 一橋大学 |
| ④ | 立教大学 | 89 | － | 0 | 東京大学 |
| ⑤ | 立教大学 | 71 | － | 0 | 学習院大学 |
| ⑥ | 立教大学 | 102 | － | 3 | 成城大学 |
| ⑦ | 立教大学 | 53 | － | 28 | 明治学院大学 |

Bグループ1位とAグループ最下位による入替戦

立教大学 25 － 5 成蹊大学

Aグループ昇格

「立教ラグビー宣言」

1. 立教は、たとえルールで禁じられていないことでも、フェアの精神で自らを律してプレーします。
2. レフリーの存在意義を正しく理解し、心から尊重します。意見があるときは必ずキャプテンを通します。
3. ノーサイドの精神を具体的行動に移し、相手への敬意を示します。
4. アフターマッチファンクションでは、決して自チームで固まらず、相手と積極的に交流します。
5. ホームでは、たとえどんなに小さな練習試合でも、必ず簡易式アフターマッチファンクションを行います。
6. 生涯、これらの精神を遵守します。

以上、これらは決して勝利を追求することと矛盾はしません。ラグビー精神を体得したチームの方が、目先のメリットに執着するチームよりも絶対に強いと確信しているからです。私たちはこの宣言を忠実に守り、ラグビーをプレーする少年・少女の模範となるべく日々行動します。私たちの考えに同調してくれるチームが増えることを祈ります。

2005年9月 立教大学体育会ラグビー部

詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.rikkyo-rugby.com/>

—神津 港人 H4営—

立教発！新ビジネス

学部卒業から、充分すぎる社会人経験を積み、再び母校の大学院で学び、MBAを取得した。昼間は仕事、夜は院生という二年間は、猛勉強の日々には違いなかったが、そこで出会った年齢も、職業も異なる同じようにエネルギーに満ちた仲間たちは、卒業後の私の人生に大きな勇気をくれた。それはまるで神様からのプレゼントのようである。

細野茂子さん

立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科2010年3月修了

新卒で商社に勤めたものの、どうしてもプロの写真家になりたいと、結局働きながら夜学で写真専門学校に通った。そのお陰で私の職業は現在もプロの写真家である。不規則な時間とメ切に追われる職業が功を奏し、院生生活の時間のやりくりと寝不足にはめっぽう強かった。

どうして芸術系の仕事をしているのにMBAなのかとよく問われるが、写真界はフィルムからデジタルという劇的な変化を遂げ、それを扱う写真家にもイノベーションが必要と感じたからにはほかならない。

そもそも写真家は受注生産の町工場のような業態で、それでは面白くないと、私はレンタルスタジオやニッチな市場のBtoCの撮影スタジオなどの会社もやってきた。ところが、デジタルの出現で、同じ仕事を続けるためには大きな設備投資が必要となった。フィルムでなければ写真ではない、設備投資はごめんだと業界を去る者も少なくなかった。私は、これを新たなチャンスに変える方法は何だろうと考えた末、ここでしっかりビジネスの勉強をしようと考えて、母校のビジネスデザイン研究科に進む決意をした。

実際に院生になってみると、文学部出身の私にとっては、ファイナンス、会計学、統計学、マーケティング、どの科目も初めてだらけでわからない用語のオンパレードだった。いわゆる大学院生が読む学

術書を理解するためには、書店の一般向けの「誰でもわかる●●」とか「ざっくり●●」などの本で基礎学習しなければならなかった。間違いなく人生でこんなにたくさん本を一度に読んだことはなかった。

最初の3カ月は無理かもしれないと何度も挫折をしかかったが、一つの科目がわかってくと次々理解が早くなるもので、一年生の夏にはすっかり勉強のペースはつかめていた。広報誌の出版サークル、パーティや合宿の企画などに首を突っ込み、すっかり院生生活を満喫するようにまわっていた。

勉強もさることながら、ここで出会った同期の仲間たちは、とにかく自分に負けず嫌いで、エネルギーに満ち満ちている。お互いがどこか似た者同士であるからなのか、実によく学び、よく飲み、よく語り合った。

2年生になると、それぞれが修了に向けての研究に入る。私はビジネスプランのゼミを選択し、修了発表プラン作りに打ち込んだ。著作権を死後50年まで認められている写真家にとっては、不正使用や権利侵害のデメリットもあるにはあるが、写真はデジタルコンテンツとして、ネット上で扱いやすい商品となった。そのメリットを考えるとアイデアは雲のように湧いてきて、ビジネスプランは、「犬猫専門写真スタジオのFC運営と、それに連動する写

真使用権販売ビジネス『わんにゃんスターフォト』の事業計画書」と決めた。アンケートを作り、データを分析し、数値的根拠を明確にし、企業価値を算出、パワーポイントにまとめたずっしり重い成果物を提出し、投資家を含めた学内外の大勢の聴衆の前でプレゼンして無事卒業となった。

言うなれば、ここまでが第一幕である。せっかく時間とエネルギーを注いだそのビジネスプランをただの修了プランとしてお蔵入りさせるのはもったいないと思った私は、第2幕も上演することにした。

卒業から10カ月準備をして、昨年このビジネスプランを台本にして、本当に起業をした。同期の仲間のアドバイスに支えられ、ようやく1年が過ぎ、台本の半ばまで実行できたところである。

修了発表プランの提出資料



ずっしり重い最終発表のビジネスプランの成果物

株式会社トップオブハートは、こんな会社です！



(本社)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1-8F (スタジオ)

〒164-0011 東京都中野区中央1-1-3-B1

TEL: 03-3325-9906 FAX: 03-3325-8574

撮影部門HP:

<http://wannyan-photo.com/>

ペットが主役の写真撮影の「わんにゃんスターフォト」と犬猫に特化した写真素材販売サイト「わんにゃんストックフォト」を運営している株式会社トップオブハートです。『ハートが一番の品質』という企業理念からこの社名になりました。

撮影部門では、広告や雑誌で活躍するプロカメラマンたちが、パターン化しない自由な発想で高い品質の写真を撮ります。プロ専用の本格的スタジオでの撮影と、ペット関連の企業やショップの集客プランとしての出張撮影会も行っています。単に写真を撮るだけでなく、集客用のチラシの無料作成や飼い主様が一緒に楽しめるイベントとして、撮影後の写真展の開催やオリジナルグッズの制作など常に新しいご提案をさせていただいています。

一方の写真素材販売サイトは、従来はプロのクリエイターと広告やWEB制作のプロの



間のごく狭い範囲のBtoBでしたが、わんにゃんストックフォトのサイトでは、写真を買う人、売る人以外に写真に写っているかわいい犬猫たちを応援する人が参加できます。ペットのご家族はもちろん、犬猫が大好きなサイトのユーザーが「カワイイ！」ボタンで投票したり、写真にコメントすることもできます。

撮影部門にいらしたお客様のわんちゃん、猫ちゃんも写真販売サイトに参加できるスターコースでは、カワイイ写真を世の中の多くの人に見てもらい楽しさも加わります。

※わんにゃんスターフォトでは、愛護団体に保護されている犬猫のミルク代を支援するためにお客様のご賛同をいただき『うちの子ポストカード』の制作販売をしています。現在ポストカードを置いてくださるお店大募集中です。

一田中 善之 S57法・H22院ビー

第60回 立教経済人クラブゴルフ会



11月27日、立教経済人クラブゴルフ会が開催されました。今回は東千葉カントリークラブです。適度にアップダウンがあり、池が結構大きめでかなり効いています。特に18番最終のショートホールはグリーンの手前が大きな池で、大袈裟ですがドラマがありそうなホールです。

グリーンは砲台が多く、早い仕上がりで下りのパットには苦勞しました。

風もなく暖かな陽射しに恵まれましたが、皆さんけっこう苦戦されていたようです。そして和田会長の乾杯で懇親会

が始まりました。優勝は、49、44の計93でまわりました、安東隆司氏(H1年卒)でした。優勝カップが和田会長から授与されました。準優勝は49、42の計91でまわりました、長倉がいただきました。和田会長よりクリスタル製盾を頂きました。

今回は第60回記念品として和田会長の御好意により、時計付きクリスタル製盾を参加者全員に頂きました。誠にありがとうございました。

次回も皆様のご参加お待ちしております。

—長倉 一裕 S59法—

タウンクラブ

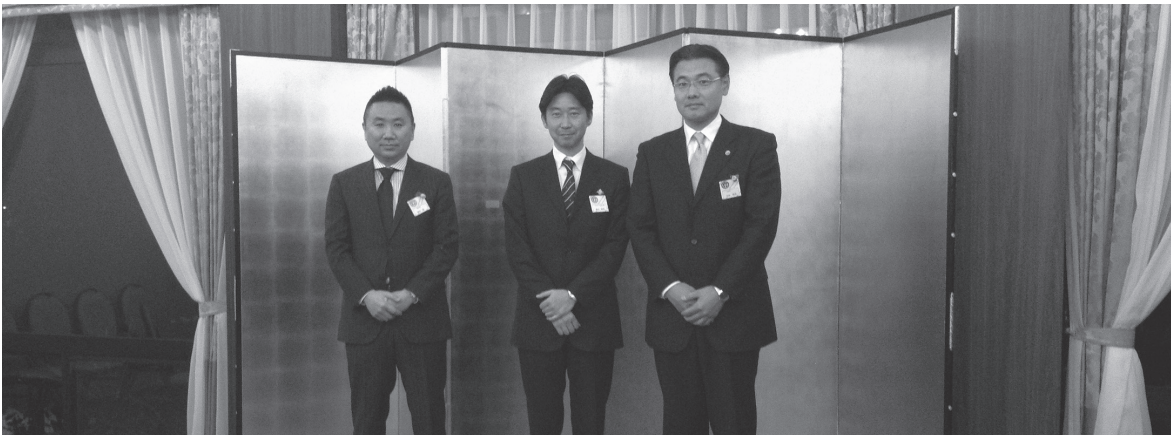
11月17日にホテルオークラのオーキッドバーにて恒例のタウンクラブが開催されました。

巷の喧騒を離れ、ゆったりとしたスペースの中で、会員相互の交流を図ることができました。仕事の話、学校の話、お友達の近況など会話がはずみ、あっという間に時間が過ぎていきました。タウンクラブは、大きな会ではなかなかお話ができない会員の皆様に、ゆっくりと交流を図っていただくために、年に2回ホテルオークラのオーキッドバーで開催しております。予約なしでも気軽にぶらりと立ち寄っていただけますので今回いらっしゃらなかった方も、ぜひ次回ご参加ください。また年に2回は、隠れたグルメスポットを探索するグルメ会も実施しております。こちらも振るってご参加ください。

—安食 正秀 S61営—



新しく会員に
なられた方々



大友 良浩 おおとも よしひろ
平成4(1992)物
はる総合法律事務所
弁護士
102-74
千代田区九段南3-3-6 麹町ビル6F
TEL:03-5276-6460
FAX:03-5276-6370
E-Mail:yohtomo@ikwlaw.com
業種:知的財産権、企業法務、相続、離婚等の一般民事

金山 俊明 かなやま としあき
平成3(1991)営
(株)コーソル
代表取締役
102-83
千代田区麹町3-7-4 秩父屋ビル6F
TEL:03-3264-8800
FAX:03-3264-8810
E-Mail:kanayama@cosol.jp
業種:Oracle DBの技術専門サービス

菊地原 浩二 きくちはら こうじ
昭和55(1980)社
東急ステイサービス(株)
五反田店 フロント
150-43
渋谷区道玄坂1-7-4 渋谷スクエアB2F
TEL:03-3280-0109
FAX:03-3280-0019
E-Mail:gotanda@tokyustay.co.jp
業種:ビジネスホテル

(敬称略)

運営委員会に参加しませんか？

経済人クラブの運営を手助けしてくれる有志を求めています。
毎月1回の運営委員会に参加して頂き(本業優先で結構)、自分の
役割を片手間にこなして頂くだけです。特別な資格、スキルは一切
要りません。本業に影響が出るようなこともありません。必要な
のは、経済人クラブの仲間と交流したいと思う気持ちだけかな!?
打合せ終了後の飲み会が楽しみかも？



震災直後、経済人として消費で国を救おうと集まった飲み会。

2012 年度 事業計画書		
月	事業	参加募集
5月	理事会	
6月	定期総会	募集します
7月	ゴルフ会	募集します
	タウンクラブ	募集します
9月	対外交流ゴルフ	募集します
	グルメ会	募集します
10月	理事会	
	朝食勉強会	募集します
11月	ゴルフ会	募集します
12月	クリスマスパーティー	募集します
1月	新春名刺交換会	募集します
3月	朝食勉強会	募集します
	グルメ会	募集します

立教経済人クラブ ウェブサイト
<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。
ぜひご覧ください。

井口様、受賞おめでとうございます！

去る2012年3月9日(金)東京ドームホテルにて、優れた経営や高い技術力を誇る中小企業をたたえる「2011年度優良企業表彰式」(東京都信用金庫協会など主催)が開かれ、都内の信用金庫と取引のある2万1千社の対象企業の中から51社が選ばれた。



さらにその中の製造業部門の最優秀賞である「しんきんものづくり大賞」は、当会運営委員会 研修委員長 井口一世様(S53営)の会社(株式会社井口一世)が選ばれました。

井口様は、第1回(2005年)渋谷栄一ベンチャードリム賞(埼玉県主催)を皮切りに、数々の受賞歴にまた大きな勲章が加わりました。

—徳澄 範光 S62数—